

環境経営レポート

“私たちは、CO₂排出ゼロを目指します”

2020年（75期）

期間：2019年12月～2020年11月

発行日：2021年1月21日



本社



八戸事業所



大阪営業所



北海道営業所

目次

1. 事業活動の概要
2. 対象範囲・対象期間及び組織
3. 環境経営方針
4. 環境経営目標
5. 環境活動計画
6. 環境活動実績及び評価
7. 環境経営活動の取組み総括と次期の取組み
8. 環境関連法規制等の遵守状況の確認結果及び外部コミュニケーションの結果
9. 経営者による評価及び見直し



1. 事業活動の概要

1) 事業者名及び代表者名

旭光通信システム株式会社 代表取締役 社長 酒井 元晴

2) 所在地

- ・ 本社 〒213-0011 神奈川県川崎市高津区久本 3-2-3 ウェルビュ溝の口 4F
- ・ 八戸事業所 〒039-2245 青森県八戸市北インター工業団地 1-3-35
設計棟 〒039-2245 青森県八戸市北インター工業団地 1-3-40
- ・ 大阪営業所 〒532-0003 大阪府大阪市淀川区宮原 5-1-3 NLC 新大阪アースビル 7F
- ・ 北海道営業所 〒060-0005 北海道札幌市中央区北 5 条西 5-2-12 住友生命札幌ビル 8F

3) 環境保全関係の責任者及び担当者連絡先

環境管理責任者（品質保証部長） 原 正行

連絡先 電話 0178-20-5540（代表） FAX 0178-20-5569

URL <http://www.kyokko-tsushin.CO.jp> E-mail m.hara@kyokko-tsushin.CO.jp

4) 創立年月及び資本金

設立：1946年6月 資本金：2,520万円

5) 事業内容

各種情報通信装置、機器のシステム開発・設計・製造並びに工事

6) 事業規模

項目	単位	2019年（74期）	2020年（75期）
		2018.12.1～2019.11.30	2019.12.1～2020.11.30
工場延べ床面積	m ²	2,430.46	2,430.46

2. 対象範囲・対象期間及び組織

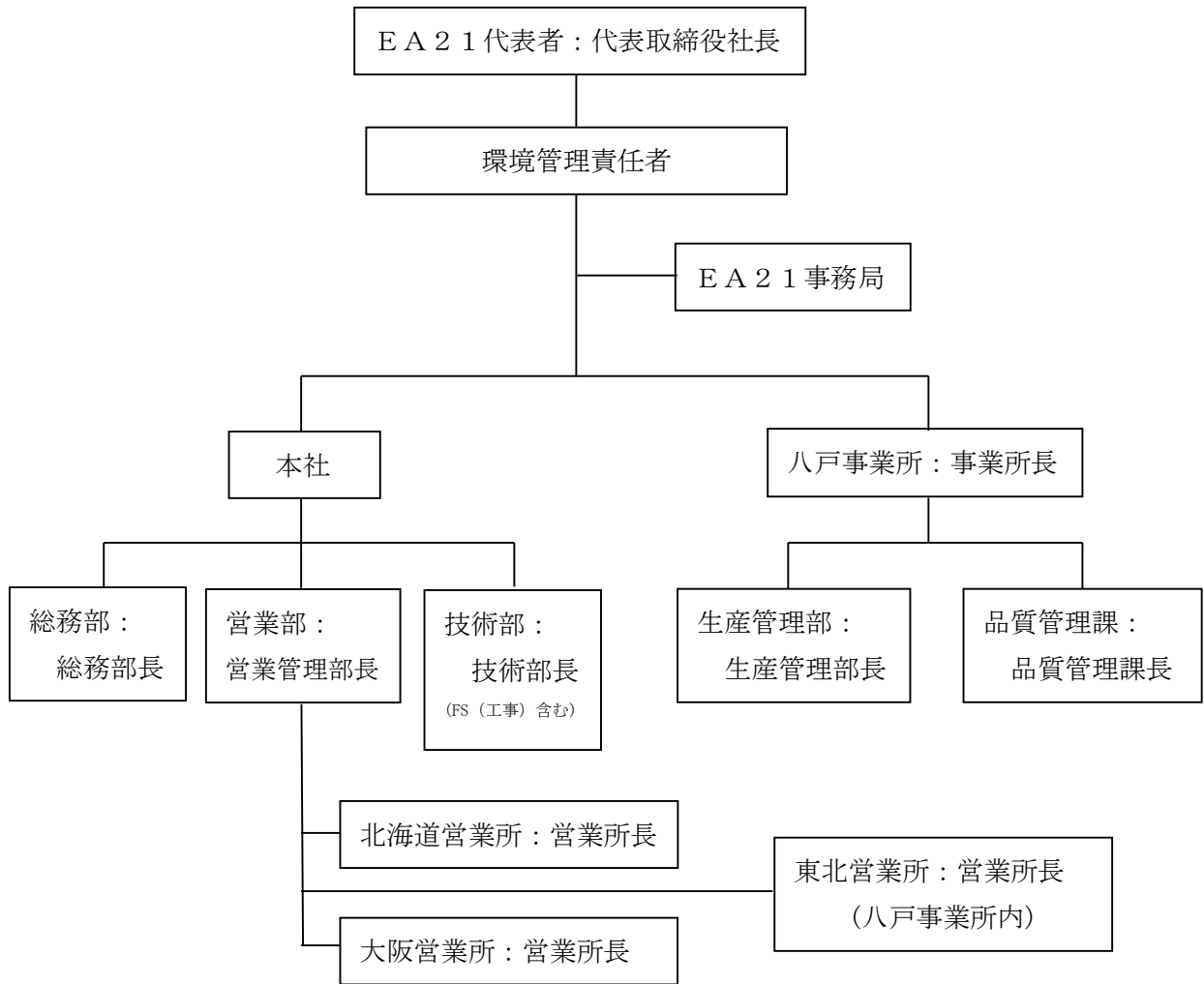
1) 対象範囲

- ・ 本社 〒213-0011 神奈川県川崎市高津区久本 3-2-3 ウェルビュ溝の口 4F
- ・ 八戸事業所(東北営業所含む) 〒039-2245 青森県八戸市北インター工業団地 1-3-35
設計棟 〒039-2245 青森県八戸市北インター工業団地 1-3-40
- ・ 大阪営業所 〒532-0003 大阪府大阪市淀川区宮原 5-1-3 NLC 新大阪アースビル 7F
- ・ 北海道営業所 〒060-0005 北海道札幌市中央区北 5 条西 5-2-12 住友生命札幌ビル 8F

2) 環境経営レポート 対象期間

2019年12月1日 ～ 2020年11月30日

3) 組織及び責任者



4) 責任と権限

組織の対象者	役割・責任・権限
社長	①環境経営方針を策定する ②環境管理責任者を任命する ③環境経営目標及び環境活動計画を承認する ④環境経営システムの運用に必要な資源を提供する ⑤環境経営システムの評価および見直しを指示する ⑥経営における課題とチャンスの明確化
環境管理責任者	①環境経営システムの構築、運用の責任と権限を有する ②運用状況全体を把握し、社長へ報告する
事務局	①環境経営システムの構築、運用に関して管理責任者を補佐する ②環境経営システムに関する記録を保持する ③外部内部からの問合せ、苦情等の窓口業務を行う
部門責任者	①環境方針、環境目標、環境活動計画の自部門に関する活動を実行する ②環境管理責任者の指示事項を実行する
従業員	① 部門長からの指示事項について実行する

3. 環境経営方針

エコアクション 21

環境経営方針

環境理念

環境保全が社会共通の最重要課題の一つであることを認識し、当社の経営理念に基づき環境に配慮した商品を維持、改善するとともに環境保全に努める活動に取り組む。

基本方針

鉄道、道路関連分野での通信機器、システム等の情報連絡機器の設計、製造、販売並びに工事を事業の柱とし、以下の方針に基づいて環境経営を行う。

1. 環境負荷低減を図る為、環境経営システムを構築し、継続的改善を図ると共に環境汚染の予防に努める。
2. 事業活動において適用される環境法規制を遵守する。
3. 環境負荷低減の為、以下の項目を環境管理重点テーマとして取り組む。
 - 1) 省エネルギー（電力、化石燃料）を推進し、二酸化炭素排出量低減を図る。
 - 2) 廃棄物発生の低減と 3R（Reduce 削減、Reuse 再利用、Recycle 有効利用）を推進する。
 - 3) 資源の有効活用を推進し、水、紙の使用量低減を図る。
 - 4) 化学物質使用（シンナー）の適正管理を推進する。
 - 5) 環境負荷低減に関する改善活動を推進する。
4. 環境経営方針は全従業員に周知し、環境意識向上に努める。

制定：2019年12月1日

改訂：2020年1月1日

改訂：2020年6月24日

旭光通信システム株式会社
代表取締役社長 酒井 元晴

4. 環境経営目標

4. 1 中期環境経営目標（基準年の売上原単位（環境目標/売上（百万））実績に対しての設定）

取組項目		部門	2019年実績(基準)	売上原単位	2020年目標	2021年目標	2022年目標	
CO ₂ 排出量削減 Kg-CO ₂		全体	232,729	162.98	売上原単位維持	17%減	29%減	
電力使用量削減 Kwh	排出係数	0.455	本社	36.943		34.92	1%減	2%減
		0.508	八戸	343,126		240.28	15%減	15%減
		0.418	大阪	2,877		33.01	1%減	2%減
		0.656	北海道	1,154		14.78	1%減	2%減
ガソリン購入量削減 ℓ		本社	6,859	6.48		1%減	2%減	
		八戸	5,406	3.79		1%減	2%減	
		大阪	2,771	31.79		1%減	2%減	
灯油購入量削減 L		八戸	1,915	1.34		1%減	2%減	
一般廃棄物削減 Kg		本社	589	0.56		1%減	2%減	
		八戸	654	0.46	1%減	2%減		
産業廃棄物削減 Kg		本社 <small>工事含む</small>	10,394	9.82	2%減	4%減		
		八戸	5,890	4.12	売上原単位維持	1%減	2%減	
水使用量削減 m ³		八戸	597	0.42		1%減	2%減	
OA紙購入量削減 枚		本社	102,000	96.41		2%減	4%減	
		八戸	249,500	174.72		2%減	4%減	
シナー購入量削減 L		八戸	16	0.011		1%減	2%減	
グリーン購入の推進		総務	28品目	-	20品目追加	15品目追加	10品目追加	
仕損の低減		生管	229千円	-	20%減	10%減	15%減	
		品証	-	-	3件以下	2件	1件	
コストダウン VE活動		生管	-	-	5件	5件	5件	
残業時間の削減		技術	2,822H	1.98	5%減	5%減	8%減	
		生管	10,628H	7.44	10%減	5%減	8%減	
		品証	4,287H	3.00	10%減	5%減	8%減	
休日出勤の削減		生管	450回	0.28	10%減	5%減	8%減	

【主な施策】

(1) 二酸化炭素排出量の削減

省エネ設備への変更（照明、エアコン、社有車）、作業効率の改善（残業時間の削減）など

(2) 廃棄物排出量の削減

仕損/工場工程内不良の削減、3R活動の推進、パーパーレス/電子化など

(3) 水使用量の削減

啓蒙活動、節水設備への交換など

(4) 化学物質使用量の削減

購入単位の改善、使用用途改善

(5) 環境改善

製品設計の環境配慮などを含むVE活動

5. 環境経営計画

環境経営計画の進捗確認は75期エコアクション21活動実施表に基づく年度計画により行う。

No.	取組項目	取組む内容
1	電力使用量削減	<ul style="list-style-type: none"> ・照明は不使用時/場所の消灯、省エネ照明機器への更新 ・OA機器の省電力設定 ・室温管理、エアコンの間引き運転 ・クールビズ、ウォームビズの展開
2	ガソリン購入量削減	<ul style="list-style-type: none"> ・エコドライブの啓蒙 ・社有車の適正使用考慮
3	灯油購入量	<ul style="list-style-type: none"> ・暖房設備の更新 ・室温管理
4	一般廃棄物削減	<ul style="list-style-type: none"> ・分別（リサイクル）の推進
5	産業廃棄物削減	<ul style="list-style-type: none"> ・3Rの推進
6	水使用量削減	<ul style="list-style-type: none"> ・節水の啓蒙
7	OA紙購入量削減	<ul style="list-style-type: none"> ・ミスコピー防止啓蒙 ・社内文書のペーパーレス化の推進 ・電子化の推進
8	化学物質購入量削減	<ul style="list-style-type: none"> ・購入量の見直し
9	グリーン購入の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・文房具/生活用品のグリーン購入を意識
10	仕損の低減	<ul style="list-style-type: none"> ・後工程不良、課内仕損不良削減策の実施
11	コストダウン VE 活動	<ul style="list-style-type: none"> ・過剰部品の排除や一体化による材料、工数削減
12	残業時間の削減	<ul style="list-style-type: none"> ・工程からの負荷状況での計画的残業計画を実施 ・生産性向上(3ム改善)の実施
13	休日出勤の削減	<ul style="list-style-type: none"> ・工程からの負荷状況での計画的な実施 ・生産性向上(3ム改善)の実施

6. 環境活動実績及び評価

6. 1 二酸化炭素排出量

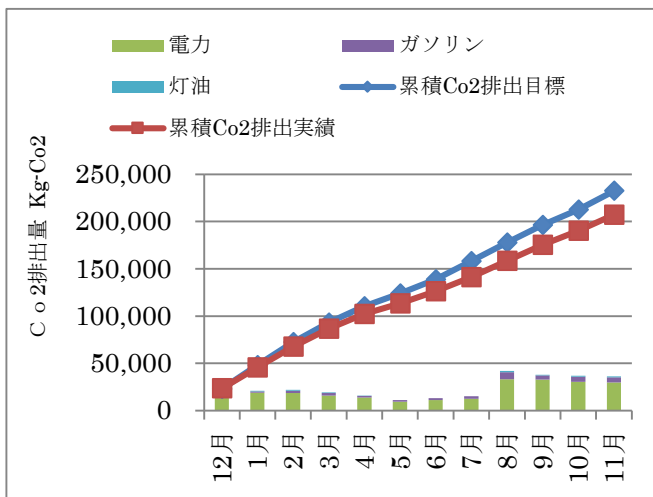
(1) 全社排出量 1290

目標値以下での評価。評価：100%以上“○”、99~80%“△”、80%未満“×”

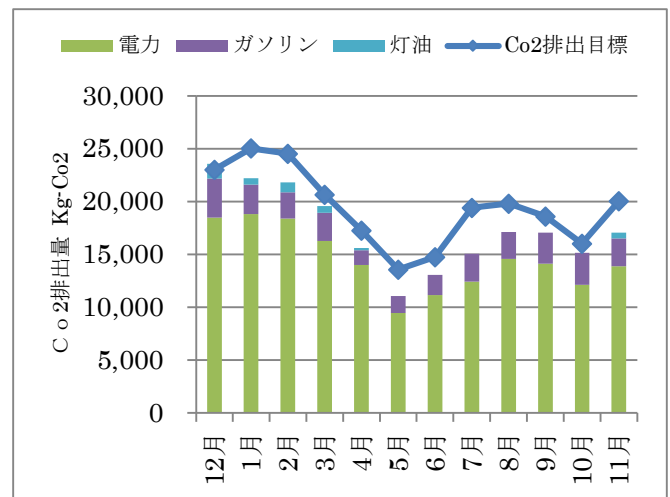
取組項目	部門	年度目標			年度実績					売上原単位評価
		量	Kg-CO ₂	*2 売上原単位	量	Kg-CO ₂	削減率%	絶対値達成率%	売上原単位原単位達成率%	
CO ₂ 排出量	全社合計	/	232,727	162.98	/	208,251	10.5	111.8	100.9	○
電力使用量 Kwh	全社合計	384,100	193,077	/	345,291	173,567	10.1	111.2	/	/
*1 排出係数	0.455 本社	36,943	16,809	34.92	32,359	14,723	12.4	114.2	101.1	○
	0.508 八戸	343,126	174,308	240.28	308,007	156,468	10.2	111.4	100.6	○
	0.418 大阪	2,877	1,203	33.01	3,593	1,502	△24.9	80.1	130.9	○
	0.656 北海道	1,154	757	14.78	1,332	874	△15.4	86.6	106.3	○
ガソリン購入量 L	全社合計	15,036	34,884	/	13,090	30,369	12.9	/	/	/
L 排出係数 2.32	本社	6,859	15,913	6.48	7,217	16,743	△5.2	95.0	84.2	△
	八戸	5,406	12,542	3.79	4,037	9,366	25.3	133.9	121.1	○
	大阪	2,771	6,429	31.79	1,836	4,260	33.7	150.9	246.8	○
灯油購入量 L	全社合計	1,915	4,768	/	1,733	4,315	/	/	/	/
排出係数 2.49	八戸	1,915	4,768	1.34	1,733	4,315	9.5	110.5	99.7	△

*1：排出係数の単位は、Kg-CO₂ *2：売上は各拠点の金額、八戸は全社の売上

【累積排出量】



【月別排出量】



【全社二酸化炭素排出量の結果のまとめ】

全社のCO₂排出量は目標 232,729 Kg-CO₂以下に対して実績 207,377 Kg-CO₂で絶対値で10.5%減の111.8%、売上比率では100.9%の達成となった。項目別CO₂排出量の比率は電力が83.3%、ガソリンが14.6%、灯油が2.1%となっている。

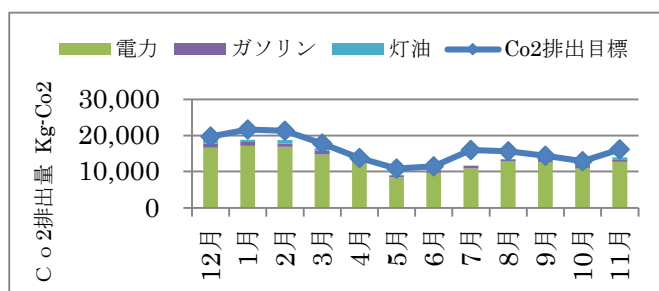
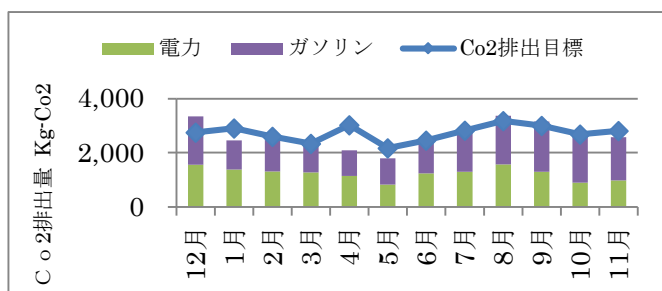
排出量の80%以上を占める電力については、各部門の取組や八戸における蛍光灯のLED化も電力量使用量削減に寄与していると考えます。

(2) 拠点毎排出量

部門	取組項目	年度目標			年度実績					売上 原単位 評価
		量	Kg-CO ₂	比率%	量	Kg-CO ₂	比率%	絶対値 達成率%	売上 原単位 達成率%	
全社	CO ₂ 排出量		232,729	100		208,251	100	111.8	100.9	○
本社	CO ₂ 排出量		32,722	14.1		31,466	15.1	104.0		○
	電力使用量 KWh	36,943	16,809	7.2	32,359	14,723	7.1	114.2	101.1	○
	ガソリン使用量 L	6,859	15,913	6.8	7,217	16,743	8.0	95.0	84.2	△
八戸	CO ₂ 排出量		191,618	82.3		170,149	81.7	112.6		○
	電力使用量 KWh	343,126	174,308	74.9	308,007	156,468	75.1	111.4	100.6	○
	ガソリン使用量 L	5,406	12,542	5.4	4,037	9,366	4.5	133.9	121.1	○
	灯油使用量 L	1,915	4,768	2.0	1,733	4,315	2.1	110.5	99.7	△
大阪	CO ₂ 排出量		7,632	3.3		5,762	2.8	132.5		○
	電力使用量 KWh	2,877	1,203	0.5	3,593	1,502	0.7	80.1	130.9	○
	ガソリン使用量 L	2,771	6,429	2.8	1,836	4,260	2.1	150.9	150.9	○
北海道	CO ₂ 排出量	1,154	757		1,332	874				
	電力使用量 KWh	1,154	757	0.3	1,332	874	0.4	86.6	106.3	○

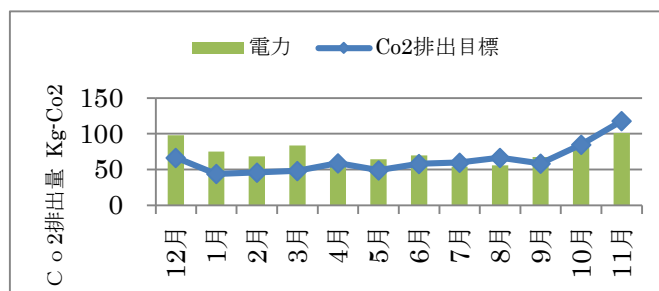
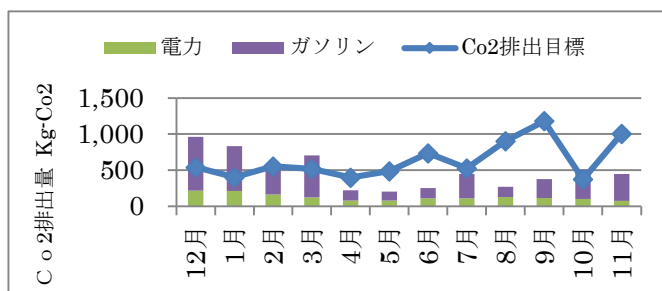
【本社】

【八戸】



【大阪】

【北海道】



【拠点毎排出量の結果のまとめ】

本社のCO₂排出量は3.8%減。個別には営業活動に必要なガソリン購入量は5.2%増加しているが、電力使用量が12.4%減少した。本社のCO₂排出比率は全体の15.1%で、ガソリンが53%を占める。

八戸のCO₂排出量は11.2%減。電力、ガソリン、灯油とも減少した。八戸のCO₂排出比率は全体の81.7%であり、その内電気が75.1%を占める。大阪のCO₂排出量は24.5%減。個別には電力使用量が24.9%増加しているが、ガソリン購入量が33.7%減少し、3月に社有車をHV車に変更したことによる効果がある。大阪のCO₂排出比率は全体の2.8%である。

北海道のCO₂排出量は13.3%の増加となっているが、大阪の電気の増加要因である人員増加によるものと考えられ、来期は今期を基準とした見直しを行う。全体として、今期は新型コロナウイルス環境下での環境変化があり削減率についての妥当性評価ができない状況であった。

6. 2 廃棄物排出量

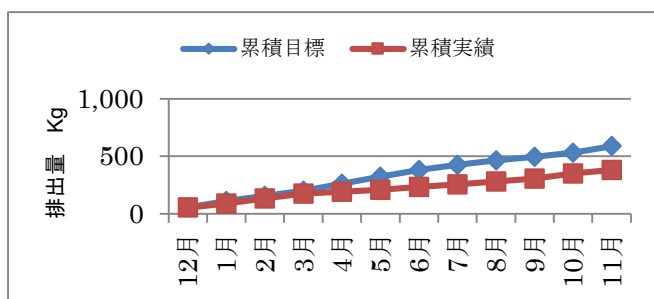
目標値以下での評価。評価：100%以上“○”、99~80%“△”、80%未満“×”

取組項目	部門	年度目標		年度実績					売上 原単位 評価
		廃棄量 Kg	売上 原単位	廃棄量 Kg	比率%	削減率%	絶対値 達成率%	売上原単 位達成率%	
一般廃棄物 *1	全社合計	1,243		1,566.5	100	△26.0	79.3		
	本社	589.0	0.56	381.3	24.3	35.3	154.5	136.8	○
	八戸	653.6	0.46	1,185.2	75.7	△81.3	55.1	50.1	×
産業廃棄物 *2	全社合計	16,284		11,445	100	29.7	142.3		
	本社 (工事含む)	10,394	9.82	6,603	57.7	36.5	157.4	139.4	○
	八戸	5,890	4.12	4,842	42.3	17.8	121.6	109.8	○

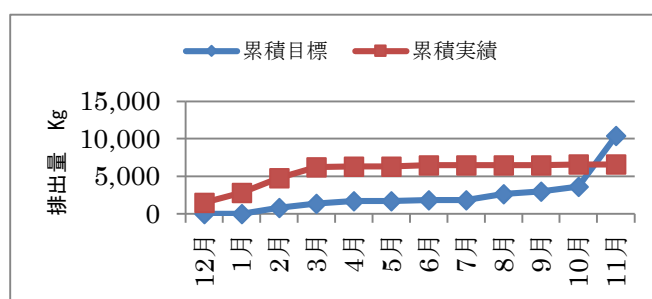
*1：一般廃棄物は、74期までは70Lの袋数で管理。75期は重量での管理となり、目標は2019/11の重量軽量実績から1袋当たり3.8Kgとして換算し、月度目標とした。

*2：産業廃棄物の本社はマニフェスト上の立法メートルを重量換算し、月度目標、実績としている。

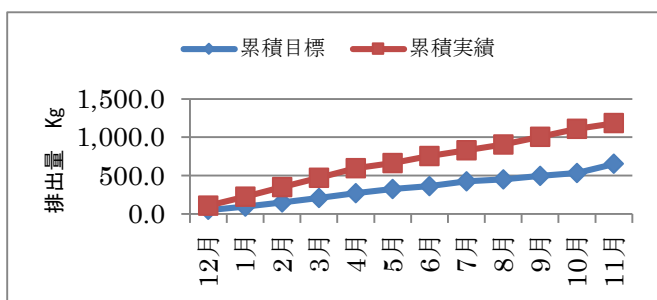
【本社 一般廃棄物】



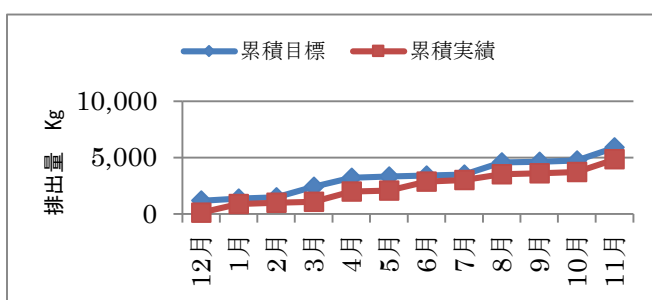
【本社 産業廃棄物】



【八戸 一般廃棄物】



【八戸 産業廃棄物】



【廃棄物排出量の結果のまとめ】

一般廃棄物排出は、本社は35.3%減となったが八戸は81.3%の大幅増となった。2月までの結果で排出物を調査したところ、OA紙が廃棄されており3月中旬からOA紙の分別を行った。主な部門別廃棄量は、製造290Kg、生産265Kg、設計263Kg、検査191Kg、共有171Kgとなっているが、目標値との乖離として、今期は管理基準の変更や基準となる前年の数字の不確かさがあったと考えられ、来期は今期を基準とした見直しを行う。削減活動としてはペーパータオルの削減やマイ箸運動などできることを始める。

産業廃棄物は本社では、全体としては36.5%減、内訳は事務所は68.6%減、工事は顧客からの使用済み製品の回収依頼により84.4%増で、工事関係の回収依頼が全体の60.9%を占めている。事務所の排出は倉庫整理による排出があった。工事関係の回収品については処理業者での分別を検討する。

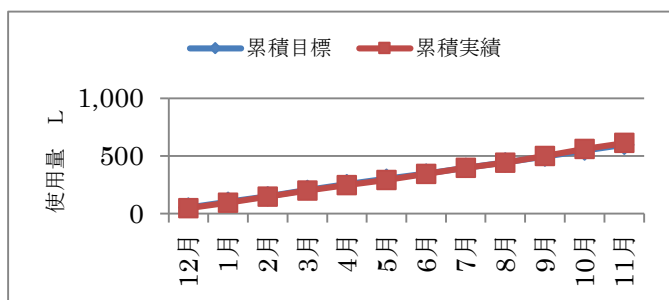
八戸の排出状況は廃プラスチック、木くず、金属くずとも減少している。要因は環境整備に伴う断捨離による廃棄が少なかったことがある。また、特別管理の廃棄物としてガラス（蛍光管）、電池、工業用バッテリーがあり、今期は 143Kg の排出があった。今後 LED 化を進めることによりガラス（蛍光管）の排出は削減される。

6. 3 省資源

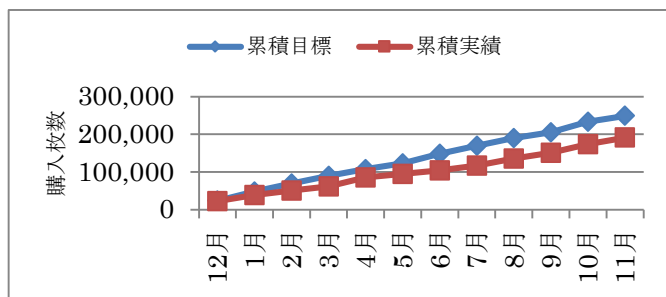
目標値以下での評価。評価：100%以上“○”、99~80%“△”、80%未満“×”

取組項目	部門	年度目標		年度実績				売上原単位評価
		購入量	売上原単位	購入量	削減率%	絶対値達成率%	売上原単位達成率%	
水使用量 m ³	全社合計	597		613				
	八戸	597	0.42	613	△2.7	97.4	88.4	△
OA 紙購入量 枚	全社合計	351,500		282,500		124.4		
	本社	102,000	96.41	91,000	10.8	112.1	99.3	△
	八戸	249,500	174.72	191,500	23.2	130.3	117.7	○

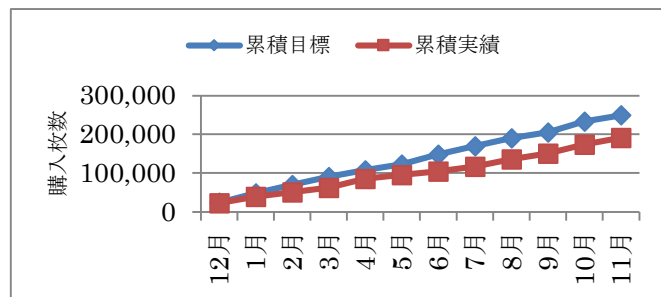
【水使用量】



【本社 OA 紙購入量】



【八戸 OA 紙購入量】



【省資源の結果のまとめ】

省資源として水及び OA 紙購入量削減活動を行った。水の使用は生活用水と製品検査で使用する防水試験がある。削減活動としては啓蒙活動が主となるが節水の啓蒙としてトイレ、流しなど水を使用する箇所に「節水にご協力を！」の掲示を行った。防水試験は今期 100 製番の実績があり、今後は水道設備の節水対策の検討と防水試験の実績対比を行っていく。

OA 紙削減は本社では、購入依頼書のペーパーレス化などを実施した。八戸は設計における検図、承認作業でのペーパーレス化、紙製本を CD 媒体提出へ変更、検査成績書の PDF 提出などがある。また、データ化によりミスプリント削減にもつながった。来期も継続する。

6. 4 化学物質購入量削減

目標値以下での評価。評価：100%以上“○”、99~80%“△”、80%未満“×”

取組項目	部門	年度目標		年度実績				売上原単位評価
		購入量L	売上原単位	購入量L	削減率%	絶対値達成率%	売上原単位達成率%	
シンナー購入量	八戸	16	0.011	8.8	45.0	181.8	164.2	○

【化学物質購入量削減の結果のまとめ】

当社での化学物質の対象は洗浄用シンナーに含まれるトルエンがある。シンナーは板金素材の一部洗浄として用いるが、購入量は約1年で16Lとなっている為、購入量削減を目的に購入ロットの見直しを行った結果、原則として最低購入量である1.6Lでの購入を行った。結果としては8.8Lの購入実績となったが、来期は手配頻度及び単価から再度購入ロットの見直しとシンナーの代替品の検討を行う。

6. 5 各部門の環境改善実績

評価：100%以上“○”、99~80%“△”、80%未満“×”

No.	取組項目	部門	年度目標		年度実績			絶対値/売上原単位評価
			数値	売上原単位	数値	絶対値達成率%	売上原単位達成率%	
1	グリーン購入の推進	総務部	新規20品目以上	-	20品目	100		○
2	仕損の低減	生産管理部	183千円以下	-	187千円	97.9		△
		品質保証部	不適合3件以下/年	-	4件	75.0		×
3	VE活動	生産管理部	5件以上/年	-	6件	120.0		○
4	残業時間の削減	技術部	2,680時間以下	1.88	2,682.5	99.9	90.4	△
		生産管理部	9,565時間以下	7.44	6,654	143.7	129.8	○
		品質保証部	3,858時間以下	3.00	1,999	193.0	174.2	○
5	休日出勤の削減	生産管理部	延べ382回以下	0.28	242回	157.9	134.3	○

【各部門の環境活動の結果のまとめ】

グリーン購入は2019年(74期)28品目の新規購入実績があり、2020年(75期)は新規20品目追加を目標に活動し、文房具等の事務用品や生活用品をリストアップし20品目を追加し目標達成となった。来期も引き続き活動を行う。仕損の低減は生産管理部では仕損費183千円以下の目標に対して187千円と目標未達成となった。仕損の低減は品質管理活動と連動して活動しているが、仕組みの改善や意識改革をしながら来期以降も品質管理活動と絡めて削減活動を展開する。品質保証部は検査ミス3件以内を目標としていたが4件の基板検査ミスがあり目標未達成となった。協力会社の指導と検査員の習熟度向上を図っていく。VE活動は、省資源化のための過剰部品の排除や一体化による材料、工数削減を目的に年間5件の目標を計画し、6件の実績となり目標達成となった。残業時間/休日出勤の削減は各部門ともほぼ目標達成となっている。従業員のスキルアップによる作業効率向上と作業計画が工程通り進捗した結果であり、来期以降も継続するが組織変更による目標値の見直しとが必要となる。

6. 6 その他の環境関連活動

環境関連活動として八戸においては朝の清掃活動、旭光農園での野菜栽培（農園フェス）を行い、今年は豚汁が従業員に振舞われた。また、例年実施されていた地域の清掃活動は中止となった。



7. 環境経営活動の取組み総括と次期の取組み

2020年（75期）は、新型コロナウイルス環境下での活動となったが、環境経営目標達成のための活動計画の取組み内容は啓蒙活動を主体として概ね実施されていたと考える。また、環境活動を活性化させるためのアテアを募り5件について実施してきた。2020年の変化としては全社のCO₂排出量の約75%を占める八戸事業所において、通路や共有エリアへの人感センサーLEDの設置や常設蛍光灯のLED化工事を行い、2021年（76期）以降の電力使用量削減に寄与してくると考える。

2021年以降の取組としては八戸事業所においてはCO₂排出係数のより小さい電力会社への変更の検討、社有車のエコカーへの切り換え、建設計画中の新工場における省電力設備/蓄電設備の導入を計画していく。また環境負荷低減に関する改善活動として設計部門では「環境配慮設計」の取組を行う。

8. 環境関連法規制等の遵守状況の確認結果及び外部コミュニケーションの結果

8. 1 環境関連法規制等の遵守状況の確認結果

当社に該当する法令に対する訴訟、関係当局からの違反などの指摘はなかった。14法令に関して遵守状況を確認した結果、法令に抵触する事項はなかった。また、年4回環境関連法規制に関する最新版の確認を行い、14法令について改訂があったが当社の事業活動へ影響を及ぼす改訂はなかった。また、14法令の内、「PCB廃棄物処理特別措置法」について対象設備の確認を行ったところ「対象なし」のため、2021年からは法規制対象から除外し、13法令が対象となる。

2020年（75期）における環境関連法規制に関する主な実施状況は以下の通りである。

【本社】

- ① 消防法に基づく点検：防火対象物点検 2020年2月
- ② 避難訓練：今期は5月と11月に予定されていた避難訓練は中止となったが、従業員に対しては、避難通路図、消火訓練マニュアル、119番通報メモの周知を行った。

【八戸】

- ① 浄化槽法に基づく点検
 - ・保守点検：2019年12月、2020年3月、6月、9月に実施し、3月に設計棟のブロー交換、11月に設計棟清掃作業を実施した。次回は2020年12月の予定
 - ・第11条検査：2020年1月に八戸事業所、11月に設計棟の検査を実施し問題なし。
 - ・その他、2020年10月に八戸事業所でブローから異常音が発生し調整を実施。今後、ブローを交換する予定である。

- ② フロン類の使用の合理化及び管理の適正化に関する法律に基づく点検
 - ・業務用エアコンが対象で年4回の簡易点検及び11月に3台の法定点検を実施し問題なし。
次回の簡易点検は2021年3月の予定
- ③ 消防法に基づく点検
 - ・消化設備保守点検：2020年5月に実施し異常なし。次回は2020年12月の予定。

【大阪】

- ① 使用済自動車の再資源化等に関する法律（自動車リサイクル法）
 - ・3月に現有車を廃車とし、ハイブリット車への変更を行った。
自動車リサイクル法による廃車処理は自動車リサイクルシステム上で4月に適切な処理が行われたことを確認した。

【北海道】

- ① 消防法に基づく点検：自動火災報知機及び排煙設備点検 2020年3月
- ② 防火管理点検 2020年10月

8. 2 外部コミュニケーションの結果

対象期間中、苦情はなかった。

9. 経営者による評価及び見直し

2020年（75期）環境経営目標については、方針に沿った活動が部門に展開され未達成項目があったものの概ね活動の結果が出ていると判断しました。全社のCO₂排出量の75%を占める八戸事業所の照明をLED化対応したことは今後において大きく効果が出てくるものと考えます。

環境活動の活性化を進める為に従業員からアイデアを募り、即効性のある事柄から実施できたことは環境活動の推進に繋がりました。ただし、目標未達項目については、目標値や管理方法などの変更を実施し、来期以降に達成できるように見直しを行っていきます。

2021年（76期）以降もCO₂排出量の削減に向けた実効性のある活動と、計画中している新工場の省電力設備/蓄電設備の導入検討を引き続き行って参ります。

－ 以上 －